

人材募集のためのキャッチフレーズ

当院で働く様々な職種のスタッフが自身が病院で働く理由・一緒に働きたい人材・当院で働くことで生まれるやりがいや生きがいを元にキャッチフレーズを考えました。いろいろな思いを持って働いているスタッフの意見を参考にあなたの求人の参考にしてください。

作業療法士 石川:地域に根差した活動を積極的にしているので、それを理解してくれるスタッフと働きたい。

『心の豊かさを育む地域性 これからの精神科医療を一緒につくろう』

『心を支える病院に あなたのエネルギーを必要としています』

『わたしたちのチームに加わりませんか あなたの知識と経験を生かせる社のホスピタル』

なかなか長い文章を最後まで読む人も少ないかなという思いもあって、関心がある項目を選べるようなホームページにして、その一部に先生のこの文章を載せるというのも良いかと。

例えば、「給与」「教育(卒後教育、臨床)」「学会発表」「理事長の想い」など知りたい情報をカテゴリーにして必要に応じて開けるようなかんじがいいんじゃないでしょうか

管理栄養士 多田:『楽しんだ者勝ち わたしたちで作る精神科医療』続く文章は

「現在の精神科医療は欧米に比べてずいぶん遅れておりたくさんの課題をかかえています。患者の長期入院、医師をはじめとする医療スタッフ不足、患者の社会復帰の困難な医療・社会環境など問題は山積みです。社のホスピタルのスタッフは現状を打破すべく多職種による医療の在り方を工夫し実践しています。それはまるで、医師が指揮者、各専門スタッフが楽団員となって構成されるオーケストラのようです。

当院のチーム医療においてスタッフには親身に患者に寄り添い、彼らから信頼されるスキルとチームの一員としての協調性が求められます。そしてわたしたちは、工夫を楽しむ人種です。私たちと一緒に未来の精神科医療を築きませんか？各専門スタッフによる取り組みは、各課のページでご覧いただけます」としてにおいて、院内でショート動画を撮り、それを載せる。生き生きとした動画を載せることで生き生きとしたやりがいのある職場の雰囲気伝わると思う。

看護師 西田:『忙しいですが、当院でもう一度輝いてみませんか。』

ここではいろいろな経験ができます。毎日毎日変化や気づきがあってとっても楽しいところです。今までの自分がどんどん変わっていきます。そして、あなたの個性が生きる職場です。さて当院には7つのCがあります。7つのCとは何でしょう。この病院で働けばわかります。そして、8つ目、9つ目のCと一緒に考えてみませんか。

医師 山西:入職したきっかけということであると、医療サイトで見たのが、『ゆったりした環境。穏やかな気候の中で働いてみませんか』というフレーズがついていた。はやりとしてはどうかわかりませんが、確か私、書類を出したときに書いた文章は、社のホスピタルが阿南市の精神科医療の基幹病院となれるよう、ひいては県南の基幹病院となれるよう努力しますと書いたと思います。

作業療法士 中井:55 個くらいあるんですけど……。キャッチフレーズ、ホームページの中身をもう少し増やせられたらという視点。個人的に考えていたが、当院でしていることが他の病院では当たり前でないということを伝えられたら。当院は学術面においてサポートが充実しているなどというのが。例えば、勉強会・学会で発表するとき初めは不安で何を書いたら良いかもわからない。書き方の指導、添削、発表の練習もさせてくださって本番を迎えるというサポートが充実している。学会発表は僕にとって興味のある所なので、そういったところが手厚いことをアピールしたい。また、図書室の司書がいるということも。普段は自分で検索しないといけない文献を田

口さんがしてくれる。それも伝えられるとよいのかなど。他にもいろいろ考えていたら、看護学校の奨学金制度や、医者であれば現在の先生ができるサポートや、多職種間の連携についても。あとは有給休暇をキチンととれることであったり、時間給が取れたりも充実していると感じている。沢山、当たり前じゃないことがある。チーム医療についてもそう。ここでやっていることを項目にして、情報開示をしていけばよいのではと思う。キャッチフレーズは『**ともに精神科医療の文化を築こう**』で終わります。

事務 吉田:キャッチフレーズだけ考えたが、それにいきつきたいきさつを。もともと僕は作業療法士で精神科志望。以前働いていたのは超慢性期。働きながらも、自分の家族が精神科疾患になったら来させたい病院ではなかった。自分の働いていた病院が誇れなかった。いろんなご縁があり、旧藤井病院に入り、高坂先生が来られ、社のホスピタルになった。いろんな部分が変わり、精神科医療がちゃんとできるようになった。患者が入院してきて治って地域に帰るといことが、ちゃんとできている。今は働いていて誇らしい。

『自分が誇れる精神科病院で一緒に働きませんか』

というフレーズを考えた。徳島県内、長期入院の病院が多いので。詳しい内容は後で詰めていけたらなど。

作業療法士 四宮:キャッチフレーズということで… 個人的にキャッチフレーズといえば、病院の名前を入れたと思った。“精神科医療アンサンブル”の本が出て、救急の必要性や人員配置的に手厚くない部分もあるが質の高い関わりが大切。何かあったときに頼ってもらえるような『**こころのレスキュー社のホスピタル**』と、時計台の「カルペディウム」の「今を生きる」といことばが自分はすごく好きなので

『今を生きねば Together with 社のホスピタル』

精神保健福祉士 櫻木:自分がここに入り仕事をして、すごくインパクトのある事。この病院ならではだなど思ったのが成長すること。家族さん、患者さんも、病気を治すだけでなく生活自体を見ていくこと。

『Grow together all, for life』

看護師 渡邊:『**チームワークが支えになる だから誰もがチャレンジできる**』『**人を想う看護をともに あなたの力が必要だ**』精神科治療を支えるのは多職種チームによるきめ細やかな援助だと考えている。それぞれの専門性を生かして患者とともに治療に取り組み、リハビリテーション、社会復帰に向け取り組んでいます。また何事にもチャレンジできる、自分も成長できえる職場環境を目指しています。

看護師 野村:『**私たちとともに働きませんか**』と書いて、各部署ごとに開いていけたらいいと思う。わたしが求人を探すときも他のホームページをいろいろ見ていたが、このホームページの印象が、建物がきれいなのと、美術品が豊富という点。若い人は情報を目でとる傾向があり写真を見るので写真を多く。若いスタッフが入ってきたら、病院も活性化するので。看護師は部長、師長の考えを重視する傾向があり、自分も同様。看護部長の考えなどを載せるほうが良いのでは。一般科から来る人もいるが、これまでのキャリアがなくなってしまうと思う人もいると思うが、ここにくることで新しい学びをもらえるということが分かればよいと思う。看護研究や外部の勉強会に参加させてもらえることも全面に出していくことで、勉強熱心な人材が集まるのではないかと思う。

看護師 青木:自分がここに応募したのは精神科だと楽ができると思って。今はずいぶん変わってきて、自分もやる気をおこさせてくれるような病院になったかなと思う。多職種連携というのが一番、活発な意見が出て、仲が良い。今まで多職種連携といいつつもなかなか言い合えなかったが今は違うところを全面に出していきたい。自分の工夫を取り入れ生かしてくれる職場だと思うので、キャッチフレーズは

『多職種が互いに言い合えて楽しめる職場です あなたの工夫を生かせる職場です』

精神保健福祉士 森岡:キャッチフレーズを考えてなかったが、徳島の人って南に動かない。なので医療センターの方も同様に本当に困ってらっしゃって、苦肉の策ではあるが、なかなかこの近辺から良い人材が来てくれる

のは難しい。県外から来てもらうとすると、阿南の土地がどんな土地なのか・・・住む場所としての魅力、地域力、社のホスピタルの影響で良い魅力ができたとか・・・

自分が大阪から阿南に来るにあたって、自分が大阪でやってきた精神福祉を遅れがちな徳島でやったらすごい最先端じゃないかと思ったので、それもポイントになるのではと思った。

看護師 羽田:携帯のホームページを見たが、「当院の考えに賛同された方は・・・」となっていて、その内容も良い文章で全部読んだ。あの文章を見て応募してくれた人は、それに納得して応募してくれている方なので、一見やる気のないように見えても、私たちがやってることを見てもらって、それについて育ってくれたらいいと思う。マンパワーがないことにはスーパー救急もできないし、人を育てていくつもりで。うちの病院は働きやすいと思う。他院のホームページも見たが、働きやすさを前面にしているサイトも多かった。中途やブランクのある方の応募も多いと思うので、それも踏まえたうえでキャッチコピーは、

『自分らしい働き方で、人を支える仕事をしてみませんか』また、精神科であるので、

『聞き上手の人を求む 聞き上手な自分の特技を生かしてみませんか』はどうでしょうか。

看護師 岡本:マグネットホスピタルというのを以前から言っていて。それは職員だけでなく患者ももちろん吸い寄せられるところ。人々がここへきて癒されて自分を取り戻していく場。専門職の人はここで学んで働きたいという場所。そういうのを文章で書けたらよいなと思う。

キャッチコピーは『あなたの青い鳥はここにいます』

看護師 西村:「アンサンブル」の本を読んで感じたこと。看護師ではなく、別人として読んで、レビューしようと思った。いろんな問題があるが、それを考えて工夫し続けることが大事で、それが次の世代に繋がると感じた。挑戦を楽しめることを含めそれらをもとに考えたキャッチフレーズは『一緒に挑戦を楽しもう』

しかも、英語より日本語の方がよいと思い「挑戦」とした。

薬剤師 中津:私の思いばかりで病院のためになるかわからないんですけど、まずはキャッチフレーズから『毎日の気づきから共に成長できる人、社のホスピタルの一員になりませんか』です。

これに続く文章は、ともにより良い医療に向かって楽しみつつ困難も乗り越え成長しましょう社のホスピタルのチームの一員として、このキャッチフレーズを考えた理由は、私が社のホスピタルに入職して新たに経験したことなどから自分が前よりも成長できた部分があるのかなと感じたからです。その成長が自分にとってとてもうれしく感じました。仕事は大変ですけど、やりがいもあってできるようになったことをうれしく感じました。この気持ちを共有できる人に入ってきてもらえたらいいなと思っています。今は、日々の仕事をこなすので精一杯ですがやりたいことがたくさんあるので、是非、入職してもらって一緒に働きたいと思います。

看護師 長尾:『人生百年時代、生涯続けられる仕事を私たち共に』というキャッチフレーズにしました。生涯修行、臨終定年この言葉は私が人生訓として掲げている一つなんです。この社のホスピタルでの取り組みは、勉強会・看護研修などの院外院内での研修をはじめ、様々な文化活動、社のマルシェなどに携わることができるのも、この社のホスピタルならではのです。福利厚生として看護・介護休暇、時間給での有給取得など他の病院でも制度としてありますが当院は取得しやすい環境にあります。長寿国と家事・育児・介護をしながら看護師として仕事も充実させ自身の人生を自分らしい形で長い息で仕事に取り組めるここはその望みが叶えられる職場であることからこれをキャッチフレーズにしました。以上です。

看護師 久米:色々私も考えて、皆さんのように上手に言えないんですが記憶に残るキャッチフレーズ、インパクトのあるキャッチフレーズということでいろいろ考えたんですが、やはり仕事において過ごしやすさとか、働きやすい職場環境が一番のアピールポイントとではないかと考えました。そしてチャレンジ精神があればスキルアップと

成長ができるということで考えた結果『**当院は仕事が楽しいと思えるような働きやすい職場環境を維持している病院です。チャレンジ精神のある方、自分を高めたい方、成長のチャンスが沢山あります**』にしました。

作業療法士 出越:僕は、単純というかシンプルなんですけど全力で患者さんのケアにあたって患者さんがだんだんと少しずつ良くなっていくその過程でやりがいというスパイスを持って、あんなに調子が悪かった患者さんが笑顔で帰っていくとか、「お世話になりました」と挨拶ができるようになったとか、ご家族の方も含めて「ありがとうございます」と言って感謝の言葉を述べるぐらいになって退院していくことをイメージして「特報」僕は「速報」とか「特報」っていうのが大好きなんですけど、『**特報！あなたのやりがい(仕事)がここで見つかるかも？**』やりがいっていうのは自分自身で感じるもので与えられるものではないと思うんです。日々の業務や仕事の中で自分自身で見つける物なので最期を？にしています。以上です。

社のホスピタル 10月11月議事録より抜粋

上記のように当院のキャッチフレーズは様々な意見・考えがあり最終的には一つには決まっておられません。逆に決めておりません。しかし、働いているスタッフそれぞれが社のホスピタルでの仕事にやりがいを持って働いているのを少しでも感じていただけたのではないのでしょうか。興味を持たれた方は、お気軽に見学にお越しください。お待ちしております。